

この度は荻野仁子のCD「さとうた」にご興味をもってくださいまして、ありがとうございます。

今回のCDは4,5年前から構想を練っておりました。

日本人である自分がウードを演奏する意味の一つとして、より広く色々な方々にウードという楽器を知って頂きたいという気持ちや、イスラムやアラビア語へのイメージを少しでも柔らかなものにしたいという気持ちから今回の製作にいたりました。また、スペインを追い出され各地に散っていったユダヤ人の歌や、未だ国を持たないクルド人の歌、シリアの内戦前に作られたダマスカスのバンドの歌(この歌は他の難民たちに向けての歌だったのに、結局今となってはその彼らが難民となっています)、これらを歌い一緒に収録することで、CDの中に民族・宗教の平和的共存の想いを託しました。

また東日本大震災で被災した福島県の中学校で生まれた合唱曲のカバーを収録。福島から発信されたこの曲が、誰かに届き、その誰かがどこかで歌っている、そんなイメージで歌いました。2016年に作詞作曲録音したエジプト応援のためのオリジナル曲はボーナストラックに収録。八月の暑い日に録音したのでセミの鳴き声を入れましたが、エジプトにセミはいるのでしょうか。

何気なく始まったウードとの付き合いですが、ウードを通して出会えた方々、皆さまからの応援や励ましのお言葉を頂きながら、ここまで成長できました。感謝の気持ちで一杯です。

ジャケット写真は今NYに住んでいる幼馴染の帰国に合わせ、私たちの故郷である福島の磐梯山を背景に撮りました。蜃気楼のように重なるアラブと幼きころの夢が形になったようなCDでもあります。

どんな苦難の中にあっても、好きな音楽を聴くと、自分に戻れる。

戻る場所である故郷と私の名前から「さとうた」というタイトルにしました。

はるかなる空の下 それぞれの心のふるさとへ 明日への祈りが響きますように 平和な世界を願って

荻野仁子
2018年9月



CDのお品書き

1.Naci en Alamo

Spanish gypsy song based on a Greek Folk Song.

Karen(Guitar,Arrangement), Junzo Tateiwa(Shaker, Bar-Chimes,Bells) and Satoko Ogino(Oud,Vo)

私には帰る場所はない。あなたのために生き、あなたのために歌う。

2013年GWが明けてのある日、Karenさんというボサノバを弾き語りする女性からメールが来た。

Sherine Tohamyさん(アブダビ在住のエジプト人女性ウード奏者)をライブゲストとして呼び出すので、その他にウード演奏の機会を設けたいとのご相談だった。初めてKarenさんが歌うボサノバを聴いたのはそのライブでだった。ボサノバが本当にさわやかで魅了された。

真逆のものへの憧れか、普段私が演奏している音楽とは全然ちがっていた。

今回のアルバムは4,5年前から少しずつ構想を練っていた。

いざ作ろうと気持ちにさせてくださったのは、(株)いとよしの大田さんからのアイデアだった。

初めてのKarenさんと私のライブにお客様としてお越しにくださった大田さん。

色々製作にあたってアドバイスを頂き感謝でいっぱい。

だからCDの1曲目はKarenさんとのこの曲と決めていた。

ボサノバの歴史、暗い歌詞もさわやかに歌い上げると。



2.Elqajiyê

Folk song from Dersim region (in Zaza language)

Hideyuki Ishida(Kaval),Junzo Tateiwa(Daf) and Satoko Ogino(Oud,Vo)

エルカジエ村の娘との恋に破れた嘆きの歌

この曲との出会いはいつだったか。すぐに好きになった。武田歩さんから歌詞や背景を教えてもらった。

私の演奏リストにはほとんど入っていると思う。クルドの歌。

3.بالذی أسکر. Biladi Askara

Old Andalusian Song "Muwashah" in Arabic and Japanese.

Japanese lyrics by Satoko Ogino

Yasuyuki Aizawa(Guitar,Arrangement) and Satoko Ogino(Oud,Vo)

2016年エジプトのヘルワン大学ハイリ先生から教えていただいた10曲の中の一つ。

古いアラブの歌。エジプトの方言で歌おうと思っていたけれど、CDなのでなまりなしに直前で変更。

日本語の意識がすぐにできてしまったので、このまま歌うことにした。

4. تحت الياasmine في الليل Taht el Yasmina fi lil ジャスミンの樹の下で

Tunisian Song in Arabic and Japanese.

Lyrics and composed by Hédi Jouini(1909-1990)

Japanese lyrics by Satoko Ogino

Yasuyuki Aizawa(Guitar,Arrangement),Satoko Ogino(Oud,Vo) and Yuji Tsunemi(Arrangement)

絶対にCDに入れたいと思っていた曲。でも一番苦戦しました。

ワード1本で歌うことが多く、何通りかのバージョンを考えてしまったために、さあどれにしようと思い迷いました。

ギターの相沢さんと師匠である常味さんに相談。常味さんもこの曲に思い入れがあり、ギターを出してきてくれて、地中海とチュニジアの青と白の風景が思い出せるコード感、それに決めました。

最後の最後にやーっと完成しました。

5. كل يوم بقول Every day I say

Syrian Band,كلنا سوا Kulna Sawa, meaning "all of us together".

Their song in Arabic and with poetry reading in Japanese.

Arabic Lyrics free translation to Japanese by Satoko Ogino

Yasuyuki Aizawa(Guitar, Arrangement) and Satoko Ogino(Oud,Vo)

JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)のイベントでガンと戦う少女サプリーンさんの映像の最後に使用されている曲。サプリーンさんは、「私は死にます。でも幸せです。私の絵を皆さんに見てもらい、多くのイラクの子ども達が助かることを願っています。」と残して天に召されたそうです。

そして、大きな会場いっぱいに流れたこの歌を初めて聴いたとき、胸がいっぱいになりました。会場をでて、すぐに事務局長の佐藤真紀さんに問い合わせ、家に帰って何度も何度もききました。

歌詞を調べました。なんとなくわかるどころと、でもほとんどわからない。でも溜息がでるほどいい曲。

歌えるかな、わからない、でも真紀さんの好きなこの曲、歌いたい。そんな気持ちで練習していたとき、シリア人のSafwat さんに出会いました。カラオケやさんに入り交換レッスンの日々。私は彼にワードを教え、Safwat さんから歌詞の意味を教えてください。何度も練習を重ねました。

Safwat さんには、Biladi Askaraと Taht el Yasmina fi lilとこの曲、そして群青のアラビアの発音を指導していただきました。

6.Durme ねむれ

Sephardic (the Jews of Spain) Lullaby in Ladino(Judaeo-Spanish).

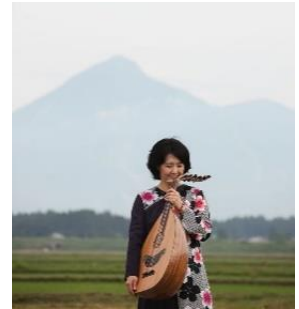
Mamoru Hoshi(Cello),Junzo Tateiwa(Tonbak)and Satoko Ogino(Oud,Vo)

これも相当前からCDに収録しようと思っていた1曲。チェロの星さんも好きな曲なので、星さんの即興演奏から始まり、即興で絡まって終わってみました。1発録りで奇跡的な1曲。セファルディの子守歌。

7. Scalerica de Oro 金の階段

Sephardic(the Jews of Spain) wedding song for a happy future in Ladino(Judaeo-Spanish)
Keisuke Ohta(Violin),Junzo Tateiwa(Darbuka,Riq,Manjira,Gungroo,Bells)and Satoko Ogino(Oud,Vo)

憧れの奏者という沢山いてバイオリンだったら太田恵資さん。あの方のようなウード奏者になりたいって思っています。今回CD作ること、最初で最後と思って作ろうと思い、(ウーディさんオリジナルソングCDはありますが)、思い出作りとして太田さんへオファーしました。立岩さんの色々なパーカッションも聴きどころです。セファルディの結婚のお祝いソング。



8. 群青 Gunjō Azure

作詞 福島県南相馬市立小高中学校 平成 24 年度卒業生(構成・小田美樹)

Words by 2012-2013 school year graduate students of Odaka Junior High School, Minami-Soma, Fukushima, ed. Miki Oda

作曲 小田美樹 Music by Miki Oda

The text is based on the pieces of the words by the junior high school students who were forced to driven out of their home town by the nuclear accident cause of the earthquake and tsunami in 2011. Music was written by their music teacher.

"Gunjo" is now penetrating to the inner heart of many people not only in Japan but also outside of Japan.

Keisuke Ohta(Violin) ,Mamoru Hoshi(Choras), Junzo Tateiwa(Percussion)

Yasuyuki Aizawa(Guitar, Choras, Arrangement) and Satoko Ogino(Oud,Vo,Arrangement)

Arabic translation by Safwat Saab

曲との出会いは、人との出会いと同じだ。

この曲は、私を長く応援してくださっている方からある日教えて頂きました。歌ってほしいと。

聴いてみました。いやいや無理無理。。涙が出てそれどころではないし、壮大すぎるし、ウードでどうやって？

そんな感想でした。しばらく放置して、また聴いて、泣いて、やっぱり無理。そんな繰り返しを数週間していた矢先に、そんなタイミングでCD作成の話が浮上しました。

できるかどうかわからないけど、一応リストに入れておいてみようかな、と思いました。

私、小学校から高校まで合唱のピアノ伴奏をしてきたので、そのうち合唱曲をウードでやりたいなと思っていたんです。怒られるかもしれないけれどアラビア語でも歌いたい、すぐにそう思ってしまった。

Safwatさんに相談しました。カラオケやさんに入り、原曲の歌詞からはずれないように、そして私が歌いやすいようにとSafwatさんが歌詞を色々考えてくれました。

キーの問題やコードのことなど、相沢さんと一緒に演奏してみても原曲と比べるとという作業を、何度も何度も繰り返しました。

この曲を作られた小田美樹先生やパナムジカさんに、アラビア語で歌ってもよいかなど伺い、許可を頂けたことも嬉しかった。

日本語コーラスはチェロ弾きの星さん、アラビア語コーラスは相沢さんにそれぞれお願いして、なんとか私らしく完成したのではないかと思う。

9. بنت البلد Bint el Balad 故郷の娘

Egyptian classic music

Composed by Mohamed Abd El Wahab(1902-1991)

Yuji Tsunemi(Oud) and Satoko Ogino(Oud)

2013年よりお世話になっている私にとってすごい相手である師匠。記念に録りたいとドウオをお願いしました。曲沢山あるけど、今回のコンセプトにも近いと思ってビント エル バラッド(故郷の娘)にしました。ウード演奏は左右に分けてもらいました。どちらが私でしょう。

10. ボーナストラック

青い金のベンヌ*のように Like a Shining Blue Bennu*

Original Song. Lyrics and composed by Satoko Ogino (2016)

Japanese and English lyrics by Satoko Ogino

Arabic lyrics by Sarah Riad

Satoko Ogino(Oud,Vo and Arrangement) and Junzo Tateiwa(Darbuka and Arrangement)

Mixing and Mastering by Junzo Tateiwa (Studio TANC)

Recording at YUDO Mejiro(2016)

*ベンヌ (Bennu) はエジプト神話に出てくる不死鳥のこと。

2016年に作詞作曲したエジプト応援歌。

エジプトにも日本にも世界にも希望がわき、平和になることを願い、想いを詰めた曲です。

セミが鳴いている暑い夏の日に目白の古民家ゆうどさんにて、立岩潤三さんに録音していただきました。

CDにもセミがいると思います。

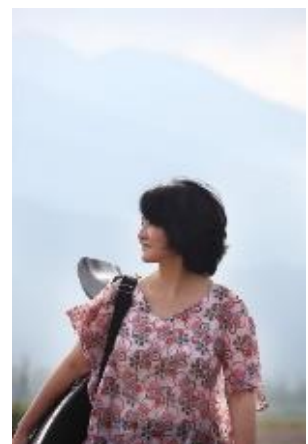
私が世界一好きな場所は、昼間の太陽の熱がまだ残っているエジプトの夜の神殿の石の上。

横になり星をみた時を忘れることはできません。

すべてを捧げてもいいと思ってしまうほどエジプトの大地が好きです。

エジプト語部分の訳 by Sarah Riad

【そこ(エジプト)は昔から神様がいて、愛されている国 そして私がいつも戻ってくる場所。どんなにはなれていても、太陽の樹はきっとあなたに届く】



今回ジャケットの写真は、幼馴染の小川佳世子さんがNYから一時帰国のチャンスに合わせて撮ってもらいました。

撮影:2018年6月福島県猪苗代町にて

彼女とは1歳半からの付き合いだ。

彼女の有り余る才能は子供の頃からよくみてきた。

私が寝転がりお菓子をだらしなく食べながらコミック漫画を読んでいる横で、何かグレード?の高いものを読んでいて、いつもいつも先に進んでいた。

足が速くて、折り紙が上手、絵が上手で手芸も上手。

頭の回転が速くてよくしゃべる。

ときばきしていて、準備が早い。

写真を撮られるときは、いつもかっこよくキメていて、ド田舎にいながら彼女からは都会(笑)を感じた。



一緒に合奏部に入り、彼女はアコーディオン私はフルートを選び、

卓球部に入りともに戦い、

探検部?を作り、ネコを追いかける人ちの庭に勝手に入ってみたり、

犬部ではともに柴犬を飼い、焼き芋部では火遊びをし、

思いつくことをやるのは、いつも彼女とだった。

小5の時、私が転校することになり、

転校先で地獄のようなじめの数年から、

人との交流を避けた時期を過ぎ、

私たちは大学に入り、社会人となり、

彼女は永住権をとりNYで活躍するようになった。



FACEBOOKという便利なツールのお陰で、

懐かしい彼女の家族とつながり、また彼女の活躍を知るのは、本当にうれしいことだ。

今回の撮影で、転校してから会えずにいた旧友たちに会え、

今はこういった生活をしている自分を、子供のころと変わらず接してくれたことに

感謝の気持ちと、あの町で生活をしていることにうらやましさを感じながら、故郷をあとにした。

帰れる故郷があること。

撮影は朝の5~8時。昔遊んだおしろやまやタコ遊園地。

田んぼ、猪苗代湖畔、旧バス停に車を走らせ、メイクや着替えもそこそこに撮ってもらった。

タヌキの歓迎もあったが、朝日が良かったね。

彼女との時間。

お互い少し歳はとったけどなにか変わらず、タイムスリップのような不思議な時間だった。

ジャケットのデザインをしてくださった内山千夏さん。私の代わりに色々付き合ってくれて、入稿した日の午後第三子を無事にご出産。おめでとうございます。そして、関わってくださった皆様に感謝いたします。2018年9月